

みなさん、おはようございます。二学期の開始に際し、式辞を述べます。

新型コロナウイルス感染防止の観点から、一学期の終業式のように、体育館に一堂に会しての始業式ができなかったことは、少し残念に思いますが、本日こうして二学期を迎えられたことに、病院などの医療関係者や、保健所などの行政関係の、最前線で戦っておられる方々の尽力によるもので、全員で感謝したいと思います。

この夏休み期間中は、大きな事故や怪我等の報告もなく、生徒の皆さんが元気な姿で、再び海洋高校の学び舎に集えたことをうれしく思います。

皆さん、心身のリフレッシュはできたでしょうか。

一学期の終業式では、今の自分に必要なこと、価値のあることを追求して、取り組んでほしいとお話をしましたが、皆さんの夏休みはいかがだったでしょうか？

では、ここから五つの項目について述べます。

**一つ目** 夏休み中、部活動、あとの伝達表彰でも紹介がありますが、特にインターハイ、

福井県内開催でしたが、全国優勝した人、全国準優勝した人、四位に入賞した皆さん、学校対抗で準優勝となったり、インターハイ以外でも、両丹予選を勝ち抜いて府大会に出場した人、練習試合で力を発揮した人、フィッシングコンテストや食品技能コンテスト、うまいもん甲子園、コツコツと魚の飼育をやり続けた人、その他の活動を含め、やはり海洋高校生、コロナ禍で、多くの行事が中止になった中でも大いに活躍してくれました。

特に、中学生対象の学校説明会でスタッフとして頑張ってくれた人、積極的に案内・交流し、中学生や保護者の方に、的確な説明やアドバイスをしてくれた人もいました。関わる側のみなさんにとっても、自分を振り返る上で貴重な経験になったと思っています。

**二つ目** 今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。

中で、オリンピックの開会式で君が代を斉唱した、ミーシャという歌手の方は、LGBTの色をまとった衣装でしたし、パラリンピックでも、さまざまな障害を乗り越え、競技に挑まれる姿には、感動を覚えます。この大会では、世界の国々が、国境の枠を越えて、「お互いの違いを認め合い、リスペクトする。（尊敬する）」という人権意識の高揚が、特にクローズアップされています。

また、オリンピック・パラリンピックでは、「試練を乗り越えて」や「けがや事故を乗り越えて」など、それぞれの選手に、さまざまなドラマが展開されていますが、海洋高校では生徒一人一人が、人生というドラマの主人公です。みなさんも、自分の将来を展望し、悔いのない高校生活にしてほしいと願っています。

**三つ目** 一年で最も長い二学期が始まりました。この二学期が終わる頃には、年末を迎え、季節も大きく移ろい、雪も積もっているような季節になります。

三年生は、進路決定の時期、就職でも進学でも、高校生活の先に、自分の豊かな人生を築くという、人としての使命と覚悟を定めて、それぞれが歩む道、すなわち、目指す進路をしっかりと掴（つか）んでください。その過程を教職員や後輩たちは見えています。

二年生は、この二学期、一年後に迫る進路の決定を視野に、目指す進路を展望しながら、

普通科の学力を伸ばす時期、また、学科・コースの学習や実習にも慣れ、本格的な資格取得や専門実習を通じて、専門力を大いに伸ばす時期であります。修学旅行もあります。

一年生は、二年生以降の学科・コース決定の大切な時期となります。

コロナの影響を受けても受けなくても、時間は同じように流れていきます。

「コロナだから」は言い訳にできません。学校での活動時間が制限される中で、先生方と対面でつながれる時間にも制約が出てきます。そのことを常に考えて、今日一日、一時間一時間の授業など、一瞬一瞬に魂を込め、今日できることを明日に延ばさないことを心がけ、早めの行動をするようにしてください。

多くの三年生が、九月十六日から就職試験に臨みます。全校生徒に言えるのですが、特に三年生が、新型コロナウイルス感染の影響を受けず、人生を決める大切な試験を受けられるようにしなければなりません。まずは、新型コロナウイルス感染症の感染防止に対する高い意識を持って今学期をスタートする必要があります。

近隣高校、中学校などでも、デルタ株と思われる、感染力の非常に強いコロナウイルスの感染があります。感染が広がる中、いつ・どこで感染者が出てもおかしくない状況にあります。本校には寮・下宿から通う生徒も多く、感染拡大の危険が大きいといえます。後の保健部長・八木先生の注意にもありますが、濃厚接触者とならない行動を、各自が、常に心がけてください。また、今後身近なところで感染が発生した場合にも、学校からの指示を冷静に受け止め、対応してください。

**四つ目** ここで、うれしかったことを一つ紹介します。

ちようど、お盆の最中、八月十四日放送の満天 青空レストラン 宮川大輔と阿佐ヶ谷姉妹が、京都府伊根町を訪れ、イワガキを生産しているところや料理、そして試食をするという内容でしたが、そこに、三人の方が取材を受けていました。なんと、三人とも海洋高校の卒業生で、三人が連携しながら立派に仕事をして、家庭を持ち、家族を支え、生活をされ、活躍されている様子を見て、大変うれしく思いました。

皆さんも、是非将来の自分が活躍する姿を想像し、展望や目標を持つようになってください。

**最後五つ目** ことわざを一つ。「石の上にも三年」を送ります。例えば、イチロー選手も活躍するまでに三年かかった例がありますが、これは、冷たくて座り心地の悪い石でも、そこに三年間座っていると、温かく座り心地の良い場所になるといことです。もちろん座っているだけではありません。くよくよせず、それをバネにして、一步一步目標に向かって努力することで、報われることを意味しています。このコロナ禍で、我慢が強いられることがあります。ちようど、今の私たちに、「くよくよせず、それをバネにして、一步一步目標に向かって努力する」ことが求められていると思います。

この二学期も、限りある貴重な時間を、自分と仲間の成長のために必死に頑張ってください。

以上、二学期始業式の式辞とします。